

呼吸器感染症に対する TMS-19-Q・GC 錠の臨床的検討

田村正和・後東俊博・滝下佳寛*・螺良英郎

徳島大学医学部第3内科

* 徳島県立中央病院内科

新しい 16 員環マクロライド系抗生物質 TMS-19-Q・GC 錠を呼吸器感染症 11 例に投与し、その臨床的効果、副作用について検討した。対象はいずれも、軽症から中等症の感染症例である。投与は、1 回 200mg を 1 日 3 回、食前に経口投与した。投与日数は 5 日間から 14 日間、総投与量は 3g から 8.4g であった。臨床効果は、11 例中 8 例が有効（有効率 72.7%）、1 例がやや有効、2 例が無効であった。分離菌種では、グラム陰性菌が大多数を占めた。副作用は、2 例に胃部不快感等の消化器症状が認められたが、中止後、速やかに消失した。他の臨床検査成績上、本剤に起因すると考えられる異常値は認められなかった。

TMS-19-Q は、東洋醸造株式会社により開発された、新しい 16 員環マクロライド系抗生物質である。本剤は、従来のマクロライド系抗生剤に比べ、グラム陽性菌、嫌気性菌、マイコプラズマなどで、比較的良好な抗菌力を示し、また、血中濃度も高いとされている。呼吸器感染

症に対し、本剤を投与した成績を報告する。

I. 対象および方法

対象は Table 1 のように、昭和 57 年 6 月から同年 12 月までの間に、徳島大学医学部第 3 内科を訪れた、外来患者 5 例、徳島県立中央病院内科を訪れた、外来患者 5

Table 1 Results of clinical trial with TMS-19-Q

Case No.	Name	Sex	Age	Diagnosis	Underlying disease	Isolated organism	Dosage (mg/day × days)	Clinical effect	Side effect
1	S.B.	F	68	Chr. bronchitis	(-)	<i>H. influenzae</i> <i>E. cloacae</i>	600 × 7	Good	(-)
2	S.M.	M	64	Chr. bronchitis	Bronchial asthma	<i>A. anitratus</i>	600 × 7	Good	(-)
3	T.H.	F	67	Chr. bronchitis	(-)	Normal flora	600 × 7	Good	(-)
4	M.S.	M	61	Chr. bronchitis	(-)	Normal flora	600 × 8	Fair	Anorexia
5	T.I.	M	52	Chr. bronchitis	Emphysema	<i>P. mirabilis</i>	600 × 10	Poor	Upper abdominal pain
6	M.I.	F	79	Pneumonia	(-)	<i>K. pneumoniae</i>	600 × 7	Poor	(-)
7	T.K.	F	65	Pneumonia	Nephrosis	<i>P. aeruginosa</i>	600 × 9	Good	(-)
8	K.N.	F	43	Acute bronchitis	(-)	?	600 × 14	Good	(-)
9	Y.K.	F	68	Acute bronchitis	(-)	?	600 × 5	Good	(-)
10	H.I.	M	30	Acute bronchitis	(-)	Normal flora	600 × 7	Good	(-)
11	S.I.	M	74	Infection associated with bronchial asthma	(-)	?	600 × 7	Good	(-)

例、および入院患者 1 例の計 11 例で、いずれも、呼吸器感染症例であった。男性 5 例、女性 6 例、年齢は 30 歳から 79 歳まで、平均 61 歳であった。11 例中、基礎疾患は、3 例に認められ、その内訳は、気管支喘息 1 例、肺気腫 1 例、ネフローゼ症候群でプレドニン服用中のもの 1 例であった。

投与方法は、いずれも、1 回 200mg を 1 日 3 回、食前に経口投与した。投与日数は、5 日間から 14 日間、総投与量は 3g から 8.4g であった。

効果の判定は、自覚症状、他覚的所見、細菌学および臨床検査成績などにより総合判断し、著効(excellent)、有効(good)、やや有効(fair)、無効(poor)の 4 段階に分類した。

II. 成 績

呼吸器感染症 11 例中、有効 8 例、やや有効 1 例、無効 2 例で、有効以上の有効率は 72.7% であった。起炎菌の検出された症例は 5 例であり、3 例は正常細菌叢のみ、3 例は検索が行なわれなかった。分離菌別では、正常細菌叢以外に、*H. influenzae*, *E. cloacae*, *A. anitratus*, *P. mirabilis*, *K. pneumoniae*, *P. aeruginosa* が各 1 例ずつ分離され、いずれもグラム陰性菌であった。細菌学的効果の検索しえたものは 3 例あり、症例 1 の *H. influenzae*, *E. cloacae* はともに除菌、症例 2 の *A. anitratus* は除菌、症例 6 の *K. pneumoniae* は減少が

認められた。

やや有効および無効症例について述べると、まず、症例 4 はリウマチ肺(疑い)に慢性気管支炎を合併した症例であるが、咳嗽、喀痰の増悪を認め本剤を投与する。各種検査成績上は変化認めないも、喀痰量の減少、膿粘性痰から粘性痰への改善により、やや有効とした。症例 5 は、10 年前より慢性気管支炎にて加療中、増悪したもので、本剤投与後、自他覚所見改善せず、白血球数 12,000→11,500、CRP (2+)→(2+)、赤沈 43→63 と変化なく、起炎菌と思われる *P. mirabilis* は(卅)→(+)と減少するも無効とした。症例 6 は、2 か月前より咳嗽、喀痰を認め、来院 4 日前より発熱をきたし、胸部 X-P 上、左下肺野に陰影を認め肺炎と診断した。本剤投与により、白血球数は 11,200→8,000、核左方移動改善、赤沈 112→72 と改善を示すも、胸部 X-P 上、陰影の増悪を認め、無効とした。

III. 副 作 用

症例 4 に投与後 5 日目より、胃部不快感、食欲不振、症例 5 に投与後 10 日目より、上腹部痛が出現するも中止後、速やかに消失した。また、症例 11 に投与後、軽度の好酸球増多が認められたが、基礎疾患によるものと考えられる。その他、臨床検査成績上、本剤に起因すると思われる異常値は認めなかった (Table 2)。

Table 2 Laboratory findings before and after treatment of TMS-19-Q

Case No.		RBC (×10 ⁶ /mm ³)	Hb (g/dl)	WBC (/mm ³)	S-GOT (IU)	S-GPT (IU)	Al-P (KAU)	BUN (mg/dl)	Creat. (mg/dl)
1	B*	367	11.5	6,600	31	36	8.0	13	0.8
	A**	370	11.8	7,600	35	35	7.8	15	0.9
2	B	440	10.4	7,800	16	18	5.0	14	1.0
	A	451	10.6	4,500	11	9	4.5	15	1.1
3	B	373	10.8	6,700	20	14	6.8	15	1.2
	A	380	11.0	6,300	24	15	6.7	16	1.1
4	B	481	13.6	6,200	22	4	7.0	13	0.9
	A	529	14.2	5,700	26	7	7.1	14	1.0
5	B	447	13.4	12,000	26	22	6.8	15	0.9
	A	457	13.5	11,500	23	16	7.3	15	1.0
6	B	381	12.3	11,200	20	17	8.3	18.8	1.0
	A	351	11.1	8,000	18	13	6.5	19.4	0.8
7	B	411	12.7	9,800	7	8	10.3	20.5	0.9
	A	435	13.5	10,400	13	10	9.2	14.5	0.9
8	B	443	13.7	5,900	20	15	6.6		
	A	451	13.8	5,000					
9	B	472	14.9	7,000	48	90	16.6		1.4
	A	420	13.5	3,600	21	34	16.3		0.9
10	B	464	14.7		19	13	5.3		
	A	466	14.9		22	15	5.8		0.8
11	B	472	9.6	7,300	31	14	7.0		1.1
	A	510	10.0	6,800	27	11	7.6		1.1

* : Before

** : After

IV. 考 察

我々は、呼吸器感染症 11 例に TMS-19-Q・GC 錠を投与した。臨床効果は、11 例中 8 例が有効（有効率 72.7%）、1 例がやや有効、2 例が無効であった。分離された菌種は、*H. influenzae*, *E. cloacae*, *A. anitratus*, *P. mirabilis*, *K. pneumoniae*, *P. aeruginosa* などグラム陰性菌であり、本来、本剤の有効菌種でないにもかかわらず、72.7% の有効率が得られたのは、軽症の症

例が多数であったためと考えられる。また、副作用として、胃部不快感などの消化器症状が、2 例に認められたが、本剤中止とともに速やかに消失した。臨床検査成績上、明らかに本剤に起因すると思われる異常は認めなかった。

文 献

- 1) 第 31 回日本化学療法学会総会，新薬シンポジウムⅣ。TMS-19-Q，昭和 58 年 6 月，大阪

CLINICAL STUDIES ON TMS-19-Q・GC TABLET FOR
RESPIRATORY TRACT INFECTIONS

MASAKAZU TAMURA, TOSHIHIRO GOTO and EIRO TSUBURA

The 3rd Department of Internal Medicine, School of
Medicine, Tokushima University

YOSHIHIRO TAKISHITA

Division of Internal Medicine, Tokushima Prefectural
Central Hospital

The clinical effect of TMS-19-Q・GC tablet, a new macrolide antibiotic, was studied in 11 patients with respiratory tract infections. Three patients had various underlying diseases.

The drug was orally administered for 5~15 days at the daily dose of 600mg. Total dosage was 3~8.4g. Clinical efficacy was observed in 8 and the rate of effectiveness was 72.7%.

Almost all of isolated organisms were gram negative. In two patients, upper abdominal pain and anorexia developed, but subsided following cessation of the therapy. No laboratory abnormalities were observed.